



USHIO

株主通信 第62期中間

〔2024年4月1日～2024年9月30日〕
2024年12月発行

CONTENTS

社長メッセージ	P2
業績ハイライト	P3
セグメント別概況	P4
Topics	P5
会社概要	P6

中間期業績は社内計画値を上回り、新成長戦略は順調に進展中。引き続き事業の成長と収益性改善による企業価値向上を目指します。



2025年3月期中間期業績の概要

当中間期業績は、為替が期初前提に対し円安で推移したことや、下期に予定していた露光装置の案件が前倒しで売上計上されたこと、さらに今年5月に公表した新成長戦略の方針である事業ポートフォリオ変革の取り組みによる効率化が進み、収益性の改善が進んだことから、社内計画を上回る結果となりました。

前年同期比では、増収減益となりました。Industrial Process事業においては、半導体市況の悪化が長期化している影響から、投資が先送りの傾向にあり、露光装置の販売が減少しました。また、Visual Imaging事業では、シネマ分野においてハリウッドストライキによるコンテンツ不足の影響から映画館の稼働低下や投資意欲の減退などが生じ、関連する光源及び装置の販売が減少しました。一方で、為替が円安で推移したことから、連結売上高は増収(856億円：前年同期比+6億円、+0.8%)となりました。

他方、営業利益は、将来につながる先行投資(次世代露光装置の開発費等)を拡大させたこと、また、事業ポートフォリオ変革の実行において製品ラインアップを見直したことによる一時的な棚卸資産評価損を計上したことから、減益(42億円：同▲6億円、▲14.1%)となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は、営業利益の減益に加え、特別損失で投資有価証券評価損を計上したことなどから、減益(23億円：同▲19億円、▲45.9%)となりました。

通期業績予想

営業利益以下の各利益予想を上方修正する判断をしました。事業面では、期初に想定した環境から大きな変化はありませんが、主に円安による為替効果と事業ポートフォリオ変革方針に伴う事業の取捨選択の取り組みで収益性が改善していることを反映したものです。

売上高については、円安効果があるものの、Visual Imaging事業の一般映像分野において一部案件の先送りや投資意欲減退の懸念があり、期初業績予想を据え置きます。営業利益は収益性改善が進んでいることを反映し、25億円上方修正し、75億円とします。親会社株主に帰属する当期純利益についても、営業利益の上方修正を受け、15億円上方修正し、60億円とします。

セグメント別の営業利益は、Industrial Process事業、Life Science事業及びPhotonics Solution事業については収益性改善が進んでいることから上方修正しました。一方、Visual Imaging事業については、円安によ

る為替効果はあるものの、一時的な棚卸資産評価損を計上したことなどから下方修正しました。

下期の業績見通しですが、売上高は、いずれのセグメントでも当上期比で横ばいまたは増収で推移する見込みです。しかし、将来に向けた先行投資を増加させる見込みのため、営業利益率は一時的に下がる見通しです。

新成長戦略(Revive Vision 2030)の進捗

今年5月に新成長戦略を公表してから既に約半年が経過しましたが、事業戦略・財務戦略ともに概ね計画通り進捗しています。不採算事業のテコ入れなどの事業ポートフォリオ変革ですが、Phase I(2024～2026年度)における変革の実行及び完遂を目指し、各事業とも計画通り進展しています。

注力事業として成長拡大を目指すIndustrial Process事業では、成長分野への人的リソース転換を実行中です。また、課題のあるEUV事業は早期に事業の方向性を判断すべく検証中であり、検査・分析用途(半導体)の事業機会を確認中です。また、半導体アドバンスドパッケージ市場に向けた取り組みも計画通り進展しています。市場成長が続いている生成AI関連の需要を取り込むべく、新たな製品ラインアップとなるデジタルリソグラフィ装置の次期からの業績貢献に向けて進展しており、現在、多くのお客様が関心を示し評価中で、生産体制の準備も進んでいます。

安定収益事業を目指すVisual Imaging事業では、抜本的なコスト構造の見直しを実行中です。また、付加価値の高いAVシステムコンサルティング事業の拡大に向け、拠点の増設などの取り組みを進めています。また、Photonics Solution事業では、開発アイテム及び人的リソースの見直しを実行中です。

Life Science事業では、新規事業案件の再評価を行い、より確実性の高い案件に絞り込み、また、進捗のモニタリングを強化しています。

これらの施策を着実に進めていくことで、更なる企業価値向上を目指します。

代表取締役社長

朝日宗文

新成長戦略の詳細は、[こちら](#)をご覧ください

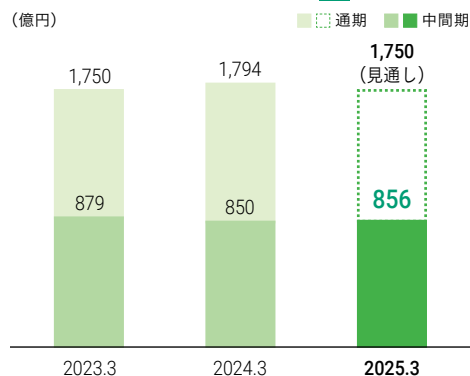


売上高・損益の推移

売上高

856億円

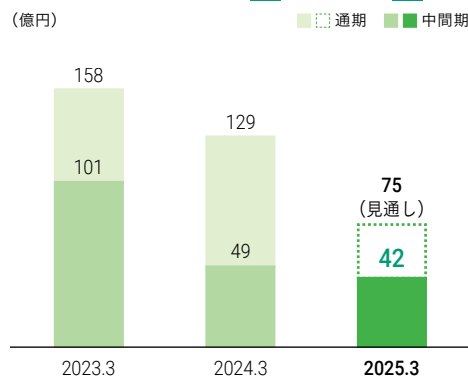
前年同期比 +6億円 ↑



営業利益／営業利益率

42億円 / 5.0%

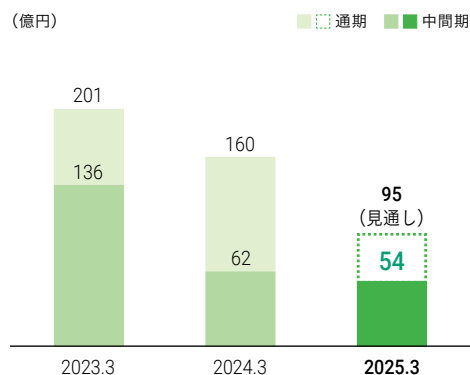
前年同期比 ▲6億円 ↓ / ▲0.9P ↓



経常利益

54億円

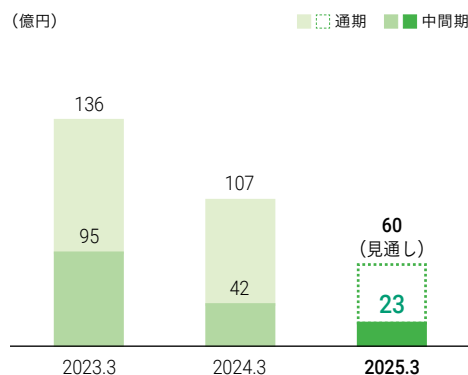
前年同期比 ▲8億円 ↓



親会社株主に帰属する当期純利益

23億円

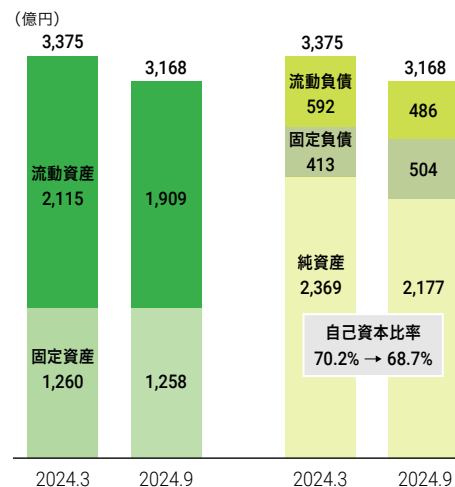
前年同期比 ▲19億円 ↓



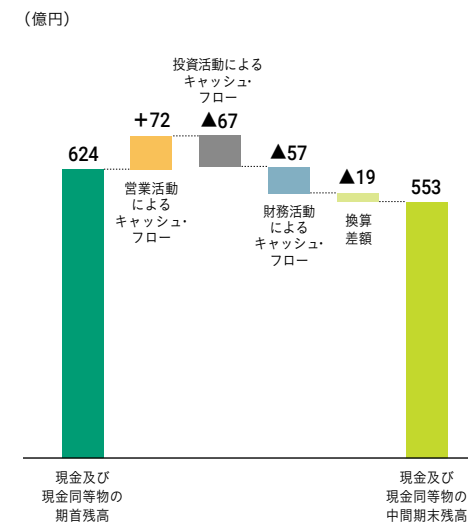
貸借対照表、キャッシュ・フローの推移

決算情報の詳細は、[こちら](#)をご覧ください

資産／負債・純資産



キャッシュ・フロー



株主還元

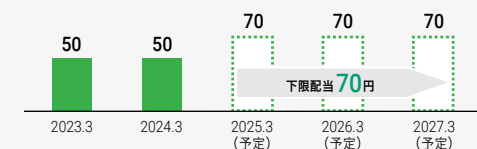
1株当たり年間配当金

【配当方針】 安定的な配当

2024～2026年度：下限配当70円／年を設定

2024年度
年間配当金：70円(増配予定)

1株当たり年間配当金推移



自社株投資

【自己株式取得方針】 機動的に実施

2024～2026年度：累計500～600億円の自社株投資を実施予定

2024年5月14日発表(実施中)

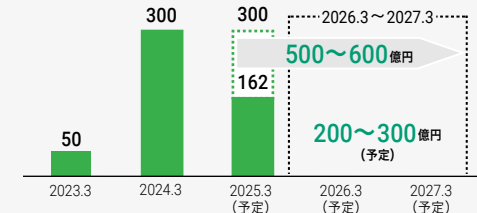
取得期間：2024年5月24日～2025年4月30日

買付予定金額：300億円(上限) 買付予定株数：2,000万株(上限)

2024年11月30日時点の買付状況(累計)

買付金額：162億円 買付株数：785万株

自己株式取得金額推移

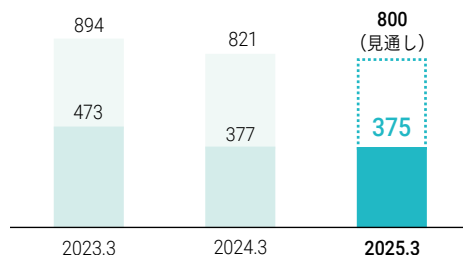


Industrial Process事業

売上高	前年同期比
375億円	▲2億円 ▼
営業利益	
52億円	+12億円 ▲
営業利益率	
13.9%	+3.5P ▲

売上高推移(億円)

■ 通期 ■ 中間期



(中間期業績)

売上高:微減 汎用サーバーやPC、スマートフォン等の半導体市場が低調で関連する投資が先送りされている影響から露光装置の販売が減少。一方、為替は円安に推移し寄与。

営業利益:増益 微減収するも、効率化の取り組みや製品ミックス改善により、収益性が向上。

(通期見通し)

円安効果と効率化の取り組みにより、売上高を10億円、営業利益を40億円上方修正。下期は、露光装置の販売が増加も、将来に向けた先行投資の増加により収益性は一時的に低下する見込み。

関連製品



露光用ランプ



投影露光装置

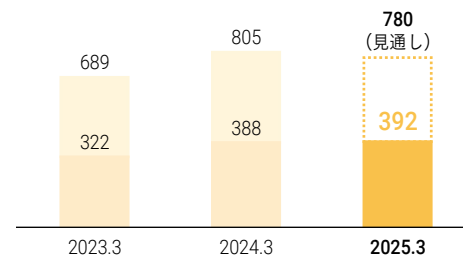
ダイレクトイメージング
露光装置

Visual Imaging事業

売上高	前年同期比
392億円	+4億円 ▲
営業利益	
▲1億円	▲31億円 ▼
営業利益率	
▲0.3%	▲8.0P ▼

売上高推移(億円)

■ 通期 ■ 中間期



(中間期業績)

売上高:微増 シネマ分野はハリウッドストライキの影響によるコンテンツ不足でランプ及びプロジェクターの販売が減少。一般映像分野も前期の大型案件減少で販売が減少。一方、円安効果が寄与。
営業利益:減益 微増収するも、事業ポートフォリオ変革の取り組みによる一時コスト(棚卸資産評価損)を計上。

(通期見通し)

売上高は据え置きとし、営業利益は上期に計上した棚卸資産評価損を反映し25億円下方修正。下期は、売上は横ばいで推移も、利益は上期に計上した評価損の減少により改善の見込み。

関連製品



シネマ用ランプ

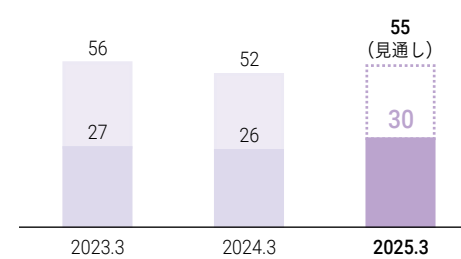
デジタルシネマ
プロジェクター一般映像用
プロジェクター

Life Science事業

売上高	前年同期比
30億円	+3億円 ▲
営業利益	
▲5億円	+6億円 ▲
営業利益率	
▲18.2%	+26.3P ▲

売上高推移(億円)

■ 通期 ■ 中間期



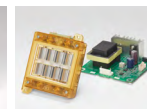
(中間期業績)

売上高:増収 植物育成向けナトリウムランプの販売が増加。
営業利益:損失縮小 増収に加え、将来の収益性や成長の確実性が高い案件に集中することにより効率化を進め、収益性が改善。

(通期見通し)

ナトリウムランプの販売増加と効率化への取り組みを反映し、売上高を5億円、営業利益を6億円上方修正。下期は、上期貢献のナトリウムランプの販売が減少も、効率化の効果で収益性は維持される見込み。

関連製品

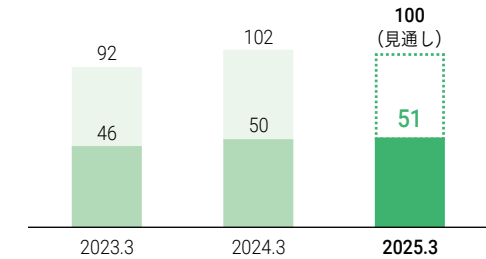
抗ウイルス・除菌用紫外線技術
「Care222®」搭載製品紫外線治療器
「セラビーム」シリーズ

Photonics Solution事業

売上高	前年同期比
51億円	+0億円 ▲
営業利益	
▲2億円	+4億円 ▲
営業利益率	
▲5.5%	+8.4P ▲

売上高推移(億円)

■ 通期 ■ 中間期



(中間期業績)

売上高:微増 主に半導体市場関連向けで販売が増加。
営業利益:損失縮小 増収に加え、開発案件の取捨選択による絞り込みで効率化を進め、収益性が改善。

(通期見通し)

半導体関連の販売は当初計画を下回る見込みで、売上高を15億円下方修正するも、効率化の効果を反映し、営業利益は4億円上方修正。下期は、売上・利益ともに上期並みで推移する見込み。

関連製品



固体光源(LD/LED)



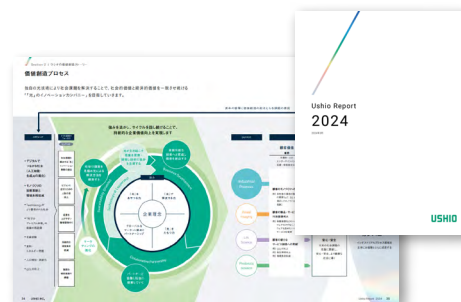
レーザーモジュール

2024年6月～2024年11月にかけてのニュース

- 6月 ・「SOMPOサステナビリティ・インデックス」構成銘柄に13年連続で選定
- 7月 ・「SEMICON West 2024」に出展
・「FTSE4Good Index Series」に21年連続で選定
- 8月 ・MSCI社が定める3つのINDEX、GPIFが運用するすべてのESG指数に選定
- 10月
 - PICK UP 1 統合報告書 (Ushio Report 2024) を発行
 - PICK UP 2 波長222nm遠紫外線照射の、歯周病菌の殺菌並びに歯周病菌が形成するバイオフィルムの破壊への有効性を確認
 - PICK UP 3 超小型LEDパッケージを開発し、未来の健康管理を支えるバイオセンサーなどでの貢献を目指す
- 11月 ・IMAPS Symposium 2024よりBest of Session Awardを受賞

PICK UP 1 統合報告書 (Ushio Report 2024) を発行

今年の統合報告書 (Ushio Report 2024) では、2024年5月に公表した、2030年度に向けた新たな成長戦略「Revive Vision 2030」の方針に則った各施策や取り組みをご紹介します。具体的には、新成長戦略に込めた想いや考えをTop Messageでお伝えするとともに、具体的な事業戦略や財務戦略及びそれらを支えるESG経営（人的資本・知的資本など）に関する施策や取り組みを掲載しています。新たな経営体制のもとで2030年の目指す姿の達成と着実な企業価値向上を目指すウシオの決意や成長可能性を感じていただける1冊となりましたので、是非ご覧ください。



統合報告書は、[こちら](#)をご覧ください



PICK UP 2

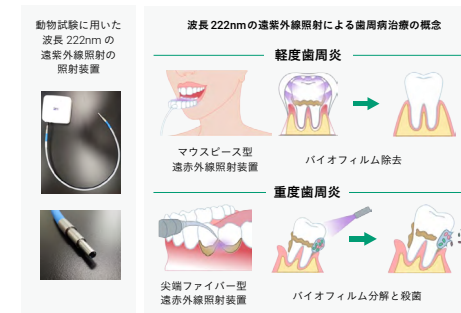
波長222nm遠紫外線照射の、歯周病菌の殺菌並びに歯周病菌が形成するバイオフィルムの破壊への有効性を確認

ウシオと共同研究をしている山口大学大学院医学系研究科基礎検査学講座の西川潤教授と、消化器内科学講座、臨床検査・腫瘍学講座、歯科口腔外科学講座のグループは、波長222nmの遠紫外線が歯周病菌の殺菌並びに歯周病菌が形成するバイオフィルムの破壊に有効であると報告しました。

有害な紫外線が除去された波長222nmの遠紫外線は、様々な細菌に対して殺菌効果を持つ一方で、人体への安全性は高いため、大変注目されています。波長222nmの遠紫外線を歯周病菌に照射したところ、人体へは悪影響を与えないエネルギーで殺菌が可能であり、歯周病を治りにくしている歯周病菌と菌体外物質から構成されるバイオフィルムを破壊する効果もありました。また、歯周病菌の殺菌に有効なエネルギーの10倍量の遠紫外線をマウスの舌に照射しても異常は認められず、安全性も確認されました。今後はさらに歯周病モデルに対する

波長222nmの遠紫外線の治療効果を確認していく予定です。

歯周病は人類最多の感染症であり、ギネス記録として登録されています。それに加え、腸内環境や認知機能にも関連すると言われており、難治性の歯周病に対する治療法の開発は重要性を増しています。本研究の成果をもとに、波長222nmの遠紫外線歯周病治療器の開発を目指していきます。



PICK UP 3

超小型LEDパッケージを開発し、未来の健康管理を支えるバイオセンサーなどでの貢献を目指す

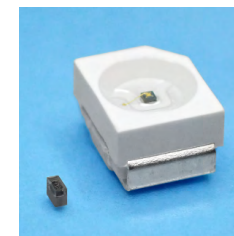
ウシオは、SWIR（短波赤外線）域である1050nm～1650nmの波長帯において、リン化インジウム（InP）系材料では世界初*となるフリップチップ構造のLEDチップを採用した超小型LEDパッケージを開発しました。2024年11月から国内外でテストサンプルの提供を開始しています。

本製品は、フリップチップ構造を採用することでワイヤーボンディングが不要となり、パッケージの大幅な小型化が実現したほか、発光面側のワイヤーによる影の影響がなくなり、出力や照度分布の均一性が向上しました。SWIR域の波長が適するスマート

フォンなどの小型電子機器やバイタルセンシング、近接センサーなどでの活用、バイオセンシング分野での研究進展や非侵襲生体診断の精度向上への貢献が期待できます。

ウシオは、今後もより先進的な光源開発を通じて、世の中の技術革新を支えていくことを目指します。

* ウシオ調べ



当社従来品との比較（左が本製品）

設立 1964年3月

資本金 19,556,326,316円

役員

代表取締役社長	朝日 崇文
取締役	中野 哲男
取締役	神山 和久
社外取締役	佐々木 豊成
社外取締役	松崎 正年
社外取締役	間下 直晃
社外取締役	増山 美佳
取締役(常勤監査等委員)	木下 誠
社外取締役(監査等委員)	杉原 麗
社外取締役(監査等委員)	須永 明美
社外取締役(監査等委員)	有泉 池秋

従業員数(2024年3月31日現在)

ウシオ電機本体	1,713名
国内連結子会社	769名
海外連結子会社	2,957名
合計	5,439名

開示情報を適時お届けする
IRメール配信サービスは、
[こちら](#)から登録ください



発行:ウシオ電機株式会社 IR室

〒100-8150 東京都千代田区丸の内1-6-5

TEL: 03-5657-1007 FAX: 03-5657-1020

<https://www.ushio.co.jp>



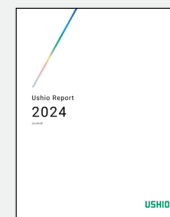
公式Facebook

<https://www.facebook.com/ushio.group/>

🖥️ オフィシャルWebサイトもご活用ください



投資家情報



統合報告書(Ushio Report 2024)



サステナビリティ



株主メモ

証券コード	6925	株主名簿管理人及び 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月		
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。 なお、中間配当制度は採用しておりません。	〈郵便物送付先〉	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
1単元の株式数	100株	〈電話照会先〉	0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00(土日休日を除く)
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※ やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することが できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。	〈株式諸手続きのご案内〉	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
		〈よくあるご質問(FAQ)〉	https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal

各種手続きに関するお問合せ先

お問合せの内容	一般口座 (証券会社の口座に記録された株式)	特別口座 (証券会社に口座のない株式)
- 住所・氏名等の変更 - 配当金の受取方法の指定 - 単元未満株式の買取請求 - 相続	お取引の証券会社	三井住友信託銀行
一般口座への振替	—	
支払期間経過後の配当金		三井住友信託銀行